

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「聖書の読める奉仕者を」

(湘南ライフタウンキリスト教会牧師、聖書神学舎教師)

いとう のぶひと
伊藤 暢人

47期(2006年)卒業の伊藤暢人と申します。牧会している湘南ライフタウンキリスト教会の祈りと協力に支えられつつ、2009年から聖書神学舎で教えています。

初めに教師としての導きについてお証しします。私の在学時に、学舎の存続をゆるがすような大問題について発表がありました。この呼び方が適当か否か議論のある所ですが、所謂モリヤ問題です。3年生の終わり頃でした。当時私は、「教えていることとやっていることが違う」と先生方に対して怒りと失望を露わにしました。尊敬し、信頼していた先生の授業をそれ以前と同じようには聞けなくなってしまうことは、苦しいことでした。その頃のクラスのいくつかは殆ど授業ではなくなっており、授業の時間を使って、モリヤ問題についてみんなで考える、でも答はない、沈黙、ただため息をつく、そんな感じでした。

先生方によってつまずいたわけですが、しかし、そのつまずきから回復していったのもまた、その問題に取り組む先生方の「背中」を見て、でありました。当時の会長代行であった先生、教師会議長代行であった先生の、苦悩する後ろ姿。また、学生の中からも「モリヤ問題において神学舎のしたことは間違っている。が、それは神学舎の教えてきたことそのものが間違っていると言うことではない。だから今自分たちに来ることは、与えられているみことばの学びに誠実に取り組み、みことばに忠実な奉仕者となって卒業して証していくしかない」という声が上がりました。辛い経験でしたが、このようなことを通して神学校教育の重要性を教えられてきましたので、卒業後に声をかけていただいたときに、教師の奉仕に使命と導きを頂くようになりました。

いつの時代も神学舎の歩みには変化があります。とりわけ教師の移り変わりにおいて、そうです。私は舟喜順一先生から直接教わっていない最初の学年の者です。反対に、岳藤豪希先生に教会音楽の指導を受けた最後の世代です。そのような者が教師に

なっているのです。先輩方は時代の変化に驚かれることと思います。しかし、人は移り変わっても、移り変わることはない神とのみことばに対する信頼に堅く立ち続けるのが聖書神学舎でありましょう。そのような学び舎の一員とされていることを主に感謝します。

私の願うところは、“聖書の「読める」奉仕者”を育てることにあります(このフレーズは何年か前の夏期研修講座で久利先生から頂きました)。聖書の読める牧師・伝道師、その人たちを通して聖書の読める信徒・教会が生まれ、育てられ、建て上げられること。

ギリシャ語、ヘブル語が読めるようになれば、即聖書が読めるようになるわけではないでしょう。聖書神学舎に来たからには原語で聖書が読めるようになって卒業して欲しいと願います。しかし、それはみことばの奉仕者として必要条件ではあれ、十分条件ではないでしょう。それ以上に重要なことは、みことばによってまことに神の御声を聞き、神と向き合い、神を恐れ神を愛することを学び、また、みことばによって伝えるべき神の使信を読み取り、余すところなく伝えるしもべになっていくことにあります。

牧師の高齢化、あとを担う奉仕者の減少が深刻になりつつある今、与えられている神学生たちは日本の教会の宝です。彼らが養われ、育てられ、神の国を宣べ伝える器とされなければなりません。そのためには、神学校の働きだけでは限界があります。しかし同時に、神学校教育の重要性も明らかです。私自身もみことばの読める牧師になりたいと、毎週の講壇の奉仕をしながらいつも願わされています。聖書神学舎を通して、いよいよそのような伝道者が養成されていくように、またさらにそのような志を抱く人が起こされるように、どうぞお祈りくださいますようお願いいたします。



聖書神学舎を支えてくださっている諸教会の皆様へ。

暑い日が続きますが、再び聖書宣教会から近況をお伝えする時期となりました。この「通信」がお手元に届く頃は、すでに前期の授業が再開されています。今年の帰寮日は8月29日で、大掃除やその他を経て9月2日から授業が再開されます。学期後半の研修生の歩みのためにお祈りください。

●キャラバン

聖書神学舎の夏の活動は、何と言ってもキャラバン伝道です。今年は、1年生4名と2年生5名とが、3名ずつ3チームを組んで各地に散っていきました。一番遠く、一番早く活動を開始したのは福岡チームでJECA 福岡聖書教会（井之上薫師）で約一週間奉仕をしました。続いて和歌山チームが日本バプテスト教会連合白浜バプテスト基督教会（藤藪庸一師）へ出発し、最長の約二週間奉仕を続け、最後は都内にあるJECA みなみ野キリスト教会（田辺証夫師）で一週間の奉仕を行いました。9月のチャペルでのそれぞれのキャラバン伝道の活動報告が楽しみです。今年は、キャラバン・チームの派遣要請が一件しかなく慌てましたが、最終的には三教会で奉仕することができました。来年度にむけて、ぜひ今から神学舎のキャラバン隊の受け入れをご検討ください。奉仕先の教会に費用の負担は一切かけず、自立型のキャラバン隊ですので、寝る場所さえあれば（つまり教会の会堂など）どこでも奉仕をすることが可能です。トラクトを配りたくても人手がない教会などで用いていただければ感謝です。

●ボランティア

今夏は、キャラバン隊を派遣するだけではなく、受け入れる経験もいたしました。前回、聖書宣教会で奉仕をしてくださるボランティアを募集しましたが、早速庭のお手入れに卒業生のご夫妻が一日汗を流してくださいました。その後、長野の教会から、牧師が韓国からの留学生4名とスタッフ2名を伴って、宣教会の庭木の手入れのために一泊で奉仕してくださいました。貴重なご奉仕に心から感謝いたします。聖書宣教会の樹木も、羽村に移転以来20年以上が経過し、相当の大木に成長しています。今年から人手不足を補うべく厚かましくもボラ

ンティアを募集してきましたが、今後も聖書宣教会通信の発送などのためにご協力できる方は是非ご連絡ください。

●夏期研修講座と教会音楽夏期講習会

さて、7月には、例年夏期研修講座と教会音楽夏期講習会を開催しています。夏期研修講座は今年も奥多摩福音の家で二泊三日のプログラムで行いました。今夏私たちの掲げたテーマは「信仰義認」でした。第一義的には、信仰義認に関する聖書箇所を学び、信仰義認そのものの理解を深めようと考えておりましたが、振り返ってみると（5頁の参加者の声にもありますように）「パウロの新しい理解」を相当意識したものとなって仕舞いました。クリスチャン新聞でも福音主義神学会でも最近よく取り上げられているように、今日、信仰義認を個人の救いの問題として理解するのではなく、共同体的に理解しようとする大きな流れがあります。これは神学的に看過できない問題になりつつあるような諸教会の状況のなかで、今夏のテーマが決まりました。こちらの意図があらかじめ十分に伝わらないことで、参加者のご期待に十分応えることができなくなってしまった点を反省しています。しかし「信仰義認に関するパウロの新しい理解」について、その疑問点を共有し、流行に安易に流されないことが重要であることを確認できたのではないかと思います。いずれにしてもこの問題は今後も相当長く続くことが予想され、私たちも目を覚ましておかなければならない課題です。

教会音楽夏期講習会は、今年も豊かな研修のひとときを持つことができました。多くの参加者の方々から感謝の言葉を頂いています。続けてこのような働きが諸教会で用いられ、また参加者が礼拝賛美のあり方で混乱する現場で、ふさわしい賛美を追究していくことができるように願っています。

●お祈りください

(1) 夏後の研修生たちの歩みのために。前期は10月16日まで続きます。11月8日（土）オープンデイです。来年度入会を考えている方々が集えるように。

(2) 聖書宣教会の新しい教師の必要のためにお祈りください。聖書宣教会の今後の体制のあり方についても良い導きを与えられますように。

.....2014年度夏期伝道実習.....

キャラバン委員長 より ふじ 依藤 慎太郎

キャラバン伝道のために祈りをもってご支援くださった全ての皆様と、また派遣先教会の皆様主に在る感謝を申し上げます。

今年度のテーマは「主の慰めをともにする」(聖書箇所：Ⅱコリント 1:3～5) でした。この時代の諸教会の上にある主の慰めをともにし、聖なる主の伝道の業に少しでも参与させていただく事が願いでした。キャラバン全体の準備と実践の中で、私達自身は主の働きに相応しくない罪人でありながらも、それにもかかわらず重要な奉仕に任命されているという事実と、だからこそ主がご自身との交わりの内で私達を強め、みことばでつくり変えて送り出して下さるといふあわれみを体験いたしました。主に限りない感謝と賛美をお捧げし、今後のより一層の働きのために、これからも主との交わりを砦とし、その内で砕かれつつ、強められつつ歩んでゆきたく思います。

福岡聖書教会

日程：7月8日(火)～14日(月)

高野 のぞむ 望、依藤 慎太郎、新井 ともなり 智也

私たちは福岡聖書教会に遣わされました。この教会は JECA の全国的な伝道計画の中で選ばれた開拓の働きで、そのための牧師として井之上薫先生が赴任された経緯のある開拓4年目の教会です。会堂から徒歩圏には学生数約二万人を抱え、特に東アジアからの留学生を多く持つ福岡大学があり、また郊外の住宅地にある教会として、特に児童から学生・若年層への英会話教室や宣教師たちとの異文化交流活動による伝道が展開され、それらが素晴らしい実りをつけていました。

私たちはそれらの各種集会での証しや伝道メッセージ、特別賛美をしながら彼らとの自然な交わりを通して奉仕しました。若年層が多い交わりでも、単純な賑やかさが中心ではなく、聖研祈祷会での学びや礼拝の分かち合いと祈りデボーションの指導等を通じて、みことばの力によって人が集められ、教会が引き締められつつグングンと育つ様子を見させて頂きました。まさに、みことばを糧として、教会が教会を生んでゆく様子そのものでありました。



白浜バプテスト基督教会 (和歌山県)

日程：7月22日(火)～8月5日(火)

横田 真理恵、前原 将太、渡辺 いさく 井作

自殺の名所として知られる三段壁の近くで、人命の保護と自立の支援に携わる白浜バプテスト基督教会にて、二週間にわたり、自立に向けて備えておられる方々と生活をし、三段壁のパトロール、NPO として運営するお弁当屋さん、地域の子どもたちの学習支援活動と、大切なお働きに加えていただきました。

また共同生活をされている方や教会の方との聖書研究、そして二回の主日には証の機会も与えられ、交わりが豊かに祝福されました。

地域の必要を知り、仕えておられる先生方のお姿を間近で拝見し、キリスト者はみことばの宣教と共に、もっと隣人の必要に目を向け、手をのばしていく必要があるのではないかと教えられ、また活動の中でそれぞれ自分自身を問われる経験もありました。

未熟な器を派遣し、教え、訓練して下さった主が、これからどのように教会に仕えていくことを求めておられるのかを問いつつ、続けて働き人として整えられていきたいと願います。



みなみ野キリスト教会（東京都）

日程：8月1日（金）～8日（金）

末吉 文、天野 孝則、坂上 瑠津子

私たちは JECA の開拓教会「みなみ野キリスト教会」に8日間遣わされました。主な奉仕として、礼拝での説教、伝道集会のチラシ配布、家庭集会や祈祷会での証などをさせて頂きました。教会学校1泊2日お泊り会では、奉仕神学生の高宗兄も加わり、ハイキングや寸劇、バーベキューなど様々なプログラムを行いました。有り余る元気を持った子供たちと過ごすのは大変な面もありましたが、まっすぐな目で真剣にメッセージを聞いている子ども達を見ると、この幼い子ども達に主の救いの御手が差し伸ばされるように、と祈られました。

また、教会員の方とのお交わりの機会もありま

した。一人ひとりが主に仕えて証する姿に、私たちキャラバンチームが慰めと励ましを受けたように思います。

今回のキャラバンでは、みなみ野地区の伝道の働きに加わらせていただくことが出来て、とても嬉しく思います。そして、この旅の全てを備え、豊かに祝福して下さった主に心から感謝します。



夏期伝道実習生を迎えて

井之上 薫（福岡聖書教会）

この夏、聖書宣教会から三名の神学生を夏期伝道実習としてお迎えすることができたことを感謝しています。伝道実習といっても、迎える私たち教会の願いは、実習の場の提供というよりも、とにかく小さな群れの働きを助けていただき、霊的な必要を満たしていただきたいということだけでした。実習生たちはこのために、実によく動いてくれました。

私たちの教会は2010年4月に産声を上げたまだ若い群れです。教会の中で中心になって動いているのは二十～三十歳代の8～9人ほどです。今回、神学生の方々にはこの若い兄弟たちと何度も顔を合わせ、よく交わっていただく機会をもうけました。その理由の一つは、牧師夫婦がすでに六十代半ばであることです。年配の私たち夫婦が今特別若い方々との間に溝を感じているわけではなく、楽しくいっしょに歩ませてもらっていると思っています。しかし、それでも年齢の隔たりに付随するギャップは、それを意識するかしないかにかかわらず、存在しているのだと思います。これはどうすることもできないものです。今回、短い期間でしたが、若い神学生たちにこの部分を少し補っていただくことができたと思います。召しに答えて進む神学生のみことばに向かう真摯な態度、喜んで奉仕する姿勢、主の導きについての真実な証等は、青年たちへの霊的な示唆と励ましとなりました。

今回のキャラバンはまた、牧師にとっても休息の時になりました。活動面からいえば当然のことですが、休息とは言えない一週間でした。しかし、神学生たちと宣教の課題や問題意識を分かち合い、普段の対話とは違う対話を楽しみ、同業者の卵（失礼？）である彼らの意見に耳を傾ける交わりは、気づいてみると私の心の休息になっていたのです。これは意外な発見であり、また意味あるキャラバンの副産物でした。

神学生が少ないといわれる時代ですので、次はいつ来ていただけるか分かりませんが、可能ならば毎年でもお迎えしたいと思わせる幸いな夏期キャラバン隊でした。

夏期研修講座に参加して

門谷 信愛希 (古川福音自由教会)

4年前に卒業後初めて参加して以来、私にとって年に一度の大切な学びの機会となっている夏期研修講座も3度目の参加となりました。今回掲げられたテーマは「信仰義認」でした。事前の案内からは何えなかったのですが、全体を通しての流れは、所謂「パウロ研究の新しい視点 (New Perspective on Paul =NPP)」に対する聖書宣教会からのレスポンスといった趣で大変興味深い三日間となりました。

以下、個人的に特に教えられたことをお分かちしたいと思います。まず第一は、津村師が第2回講義において「ハバクク 2:4 は、創世記 15 章のように、『信仰義認』の<教理>を語っているのではなく、信仰者の生き方を語っているのだ」と語られたことです。文字通り「目から鱗」でした。さらに、第5回講義では赤坂師より「δικαίωσ(新改訳「義と認める」)を従来のように義認論に限定せず、救いの全体像と重ね合わせて理解すべき。特に舟喜順一師の書『聖書の教える救いについて』の包括図が助けになる」との指摘は、我が意を得たりの思いでした。また、横山師による第6回講義において「ガラテヤ書 2 章における πιστις του Χριστου(新改訳「キリストを信じる信仰」)は積義的に見て目的属格に限定することは困難である」との指摘が導かれたことも印象深いことでした。以上を含め、講座全体を振り返っての個人的な印象としては、NPP がもたらす義認理解の変更に対して警鐘が発せられる一方、従来のやや体系化がされすぎた感のある「義認論」をもう少し広く捉える必要があるのでは、との指摘も同時になされたように思います。後者については、私自身牧会の現場で日々魂に向き合う中でも感じさせられていることでもあります。その意味でも、NPP が今後徐々に日本にも浸透して行く可能性が考えられるこの時代にあって、聖書宣教会としても慎重かつフェアな吟味が求められていくのでは、との思いを新たにしました。今回、そのような「吟味」の一步を、三日間に渡るみことばの濃密なる釈義、また志を同じくする仲間たちとの熱い語り合いを通して頂けたことは、本当に感謝なことでした。

願わくばこの講座が、既に働きの場で格闘しておられる諸先生方にとってまさに「みことばのオアシス」となり、来夏はさらに多くの参加者が与えられることを心から願いつつ。

教会音楽夏期講習会に参加して

高橋 あゆみ (天童聖書バプテスト教会)

渡辺 茂子 (津豊ヶ丘キリスト教会)

ピアノを学び奏樂の奉仕を始めたものの、オルガンの奏法からよくわからず、さらに毎週の奏樂をこなすことで精いっぱい ... これでもいいのかと疑問の日々でした。

みことばを聴き理解する時間や、「発声やリズムにとらわれず、賛美の言葉を意識して」歌う実践、日本語のリズムや抑揚に合わせて作られた“みことばのうた”を知る。モヤモヤした心に光がさしてくるようでした。分科会では、オルガンの打鍵法から、リズムや拍子・音の並び・記号に込められた意味を丁寧に教えていただき、学ぶ一つひとつのことに驚きと感動の連続でした。この先また機会があればより深く学びたいと祈っています。講習生や先生方との交わりと祈りの時も、本当に励まされました。6年前に知った講習会、今年、参加へと導いてくださった神様と、先生方、スタッフの皆さんに感謝します。

とても祝福された3日間でした。振り返って身が引き締まる思いがするのは、みことばと祈りがベースであったということです。

諸先生方を強め、参加者に参加の気持ちを湧き起こしてくださった神様は、先生方をおして熱心に礼拝・講義・分科会の中で、御心を示してくださいました。また些細な交わりでの会話に励まされ、それが主からのものだと気づかされました。

私は昨年参加しました時、音楽をおして主にお仕えしたいとの願いが与えられました。でも力強さに欠け、足のなえたような者でしたが、主は「わたしがともにいる、福音を広めることにだけに心を注ぎなさい」とお語りくださいました。神様は、同じく参加され、また地域の教会に戻られたすべての参加者に、あらたな使命をお与え下さったに違いありません。ハレルヤ

「オープンデイ」のお知らせ

11月8日(土)

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会として是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~ 10:35	III ~ IV 10:50~12:30
1年	—	チャペル (久利英二)	組織神学II(神論) (榎木由行)
2年	新約研究I(福音書) (三浦 譲)		弁証論I (横山昌英)
3年	宣教学II(異教・異端) (赤坂 泉) 牧会学III(教会組織) (赤坂 泉)		弁証論I (横山昌英)
4年	新約研究II(使徒の働き) (久利英二)		旧約研究IV (津村俊夫)

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

「賛美礼拝」のお知らせ

11月29日(土) 14:30

今年も下記のように賛美礼拝をささげます。共に主をほめたたえ、礼拝する特別な機会です。どなたでもご参加いただけます。是非お誘い合わせてお出かけください。

テーマ：心の貧しい者

聖書：マタイの福音書5章1~3節

説教：三浦 譲

曲目：

- 山上の教え (岳藤豪希)
- 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは (I テモテ 1:15, H. Schütz)
- 新作賛美歌
- ほか

演奏：重唱、合唱、会衆賛美、詩篇交互唱、オルガン

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

《ボランティア募集》

現在の具体的な必要は次の二つですが、他にも特別な賜物や関心をもってお手伝いくださることがあれば是非ご連絡ください。授業日であれば、朝 10:05 からのチャペルでの礼拝や、12:30 からの昼食の交わりにもご参加いただけます。予約をいただければ昼食は提供させていただきます。ご連絡、お問い合わせは電話、FAX またはウェブサイトの「お問い合わせ」からのメールをお願いします。

《庭と植木の管理》

美しい中庭からケヤキなどの高木まで、研修生の係活動とボランティアのご奉仕で良く管理されてきていますが、さらに強力な応援を期待しています。いつでも ご都合の良い日 にお出かけいただいでご奉仕いただけると感謝です。

《通信発送作業》

聖書宣教会通信は、年 4 回、特定の火曜日の午後に研修生全員で発送作業を行っています。発送作業のお手伝いも大変助かります。(今回は 12 月 9 日の予定です。ご奉仕くださる場合は事前にご連絡いただくと助かります。)

《お詫びと訂正》

聖書宣教会通信前号(157号)の巻頭言で、タイトルから聖書箇所が欠落した紙面を発行してしまいました。皆さまにご迷惑をおかけしましたことをお詫びして、訂正させていただきます。

誤：「良いものは良い」(テモテへの手紙第二)

正：「良いものは良い」(テモテへの手紙第二 1 章14節参照)

編集後記

この夏も、各地で宣教の働きが祝されたことと信じます。主の召しに思いを向け、直接献身について祈ることを促す働きかけについてもしばしば耳にします。宣教の主ご自身が、個々人においても、教会に対しても、御旨を明らかに示し、実現へと

至らせてくださることを感謝します。

前号からわずか 3ヶ月の間にも、日本でも世界でも、大きな動きが続いています。平和の主が、主の民を顧み、用いてくださいますように。御国が来ますように。(A)